



【韓国】 総合指数は週間で0.7%高と3週ぶりに反発、金融株に買い

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.7%高と3週ぶりに反発。一進一退の動きを続けながらも買い戻しが優勢な展開だった。堅調な米株相場が好感されたことや12-13日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で追加利上げが決定したことを受け、金融株を中心に買いが広がった。韓国銀行（中央銀行）が15日に発表した17年7-9月期の企業売上高の伸び率が6年半ぶりの高水準だったことも投資家心理を支えた。ただ、前週と同様に節目の2500ポイント付近では上値が重く、サムスン電子やSKハイニクスなどハイテク株の軟調な動きが相場の足かせとなった。今週は再び2500ポイントを目指す展開か。ただ、クリスマス連休に向けて週後半に見送りムードが強まる可能性もある。今週は19日に11月の生産者物価指数（PPI）が発表される。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は2.6%高と3週ぶりに反発、今週は引き続き堅調な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で2.6%高と3週ぶりに反発。原油価格の上昇と海外株高を支援材料に買い優勢の展開となった。週序盤は北海油田のパイプラインに亀裂が見つかったことでブレント原油が63ドル台前半から65ドル台後半まで急騰し、これを材料にRTS指数は1120ドルから1150ドル台半ばまで上昇。週後半は週末のロシア中央銀行の政策決定会合を控え、小幅な値動き。15日の取引時間内に中央銀行が市場予想を上回る幅で利下げを決定したものの反応は限定的で、前日比0.4%安の1148.27ドルで週の取引を終えた。中央銀行は主要政策金利を8.25%から7.75%に引き下げた。市場は8.00%への利下げを予想しており、下げ幅は想定以上だった。今週は原油価格が安定すれば、引き続き堅調な値動きが見込まれる。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.5%安と続落、今週もやや弱含む展開が続く

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.5%安と続落。前週に10週ぶりに反落した流れを引き継ぎ、総じて売り優勢の展開となった。ただ、押し目には買い戻しも入り、下値は限定的だった。週明け11日は売り先行。12日は後場寄り直後に急落し、895.73ポイントまで値を崩したが、その後は買い戻され、前日比プラス圏に浮上した。週半ば以降はもみ合いながらも下値を徐々に切り上げ、15日には939.57ポイントまで値を戻したが、引け際に売りに押され、前日比0.1%安の935.16ポイントで週の取引を終えた。個別では前週の押し下げ要因だったピナミルクが4.7%高、ベトジェットエアが7.5%高と指数を支えたが、ファロス建設が10.8%安と2週連続で10%超の下落、ビンググループが3.8%安と指数を押し下げた。今週もやや弱含む展開か。

▼指数チャート

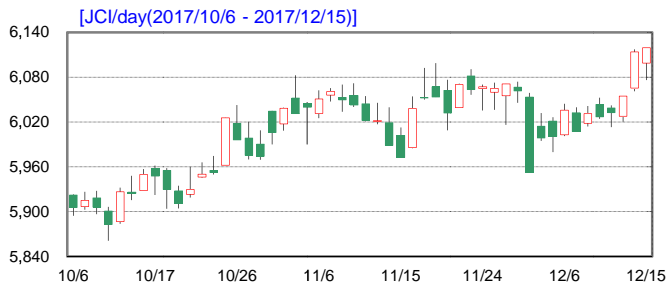


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.5%高、週後半に 2 日連続で過去最高値を更新

ジャカルタ総合指数は週間で 1.5%高と続伸。週初に反落したが、その後は週末まで 4 日続伸と好調だった。14 日はアストラ・インターナショナルとインドセメント・トゥンガル・プラカルサが買われて指数は前日比 1.0%高。15 日は前日に金融政策決定会合を開催した中央銀行が取引終了後に発表した声明で、インドネシア国内の経済が堅調に推移しているとの見解を示したことに加え、11 月の輸出が前年同月比で 2 桁増を維持したことが好感され、2 日連続で過去最高値を更新した。政策金利は 3 会合連続で 4.25%に据え置かれている。今週は国内の重要イベントが少ない中、前週の勢いを維持できるかが焦点。

▼指数チャート

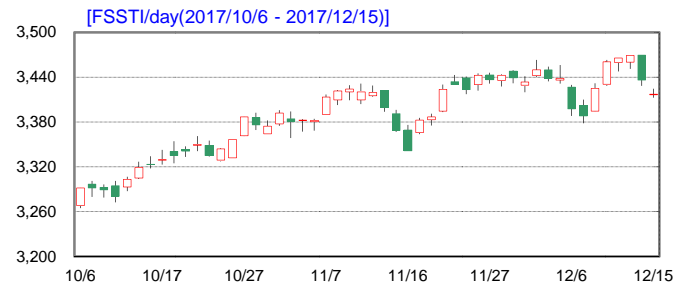


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.2%安、今週は 11 月の非石油地場輸出に注目

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.2%安と続落。週半ばまでは好調に推移したが、後半の下落が響いた。11 日は銀行大手 3 行の株価が終値で上場来高値を更新した上、前週末に配車サービスを手掛ける米ウーバー子会社の権益 51%を取得する計画を発表した交通大手のコンフォートデルグロが買われて指数は前営業日比 1.0%高。その後もじりじりと上値を広げ、13 日には終値で 2 年 7 カ月ぶりの高値を更新したが、14 日は金融株の下落で 5 営業日ぶりに反落。15 日は前日の NY ダウが反落した流れで続落した。18 日発表の 11 月の非石油地場輸出は 9.1%増と市場予想を上回っており、株式市場で好感されるか。

▼指数チャート

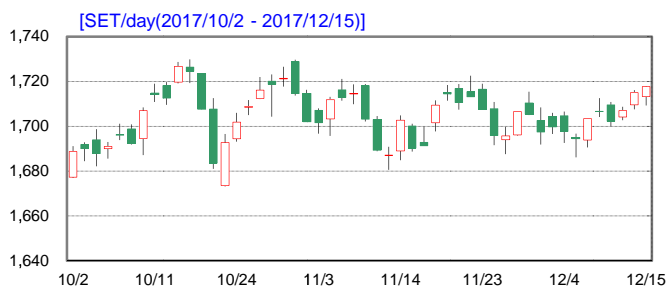


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.7%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

SET 指数は 4 日間の取引で 0.7%高と 3 週続伸。国内の買い材料に乏しい中、週半ばからじりじりと上値を広げた。連休明けの 12 日は反落したが、13 日は北海の主要パイプラインが修理のため稼働停止したことによる原油先物価格の上昇を受けて指数は反発。14 日は為替相場で米ドルに対するバーツ高が進んだ効果で続伸すると、15 日は終値ベースで約 1 カ月半ぶりの高値を付けた。今週は 20 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。政策金利は 1.50%に据え置かれるとの見方が優勢で、会合後に発表される声明内容が注目される。前週末の NY ダウが反発し、過去最高値を更新したことは好材料。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.8%高、政策金利の引き上げ観測浮上で金融株に買い

クアラルンプール総合指数は週間で 1.8%高と 3 週続伸。外国人投資家の買いが奏功し、おおむね堅調に推移した。13 日はアジア開発銀行 (ADB) が今年のマレーシアの GDP 成長率の見通しを 9 月時点の前年比 5.4%から 5.8%に上方修正したことが好感されて続伸。14 日は前日まで開催されていた FOMC で追加利上げが決まった流れを受け、マレーシアの政策金利が引き上げられるとの観測が浮上。金融株が買われて指数は前日比 1.2%上昇し、終値で約 2 カ月ぶりの高値を更新した。今週は 20 日に 11 月の CPI 上昇率が発表される予定で、市場予想は前年同月比 3.4%と前月の 3.7%を下回るとの見方が優勢。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。